



木はいいなあ

ジャニス・メイ・ユードリイ さく
マーク・シーモント え
さいおんじ さちこ やく
偕成社 1976年 1050円
32ページ 29×17cm

木は森を作ってくれます。木陰も作ってくれます。おいしい果実も実らせてくれます。災害からも守ってくれます。子どもの遊び場にもなってくれます。木はいいなあ。

そんな木の素晴らしさを子どもに楽しく語りかけ、最後は木を植えようというメッセージで締めくくられています。見開きいっぱい、緑の葉や紅葉した葉が、鮮やかな美しい色彩で描かれています。

今の子どもはどれほど木に親しんでいるのでしょうか。昔に比べて木が少なくなっている今だからこそ、読んで欲しい絵本です。



きょうはみんなでクマがりだ

マイケル・ローゼン 再話
ヘレン・オクセンバリー 絵
山口 文生 訳
評論社 1991年 1365円
32ページ 26×29cm

カラーと白黒の画面の繰り返しと言葉の繰り返しの面白さが一体となったこの絵本は読み手も読んでもらう側も大満足という秀作です。

若い父親と母親と3人のこどもたちが、勇ましくくまがりにてかけます。草はらを、川を、ぬかるみを、森を、ふぶきをこの家族と一緒に通り抜け、ほら穴に到着です。でもやっぱりくまは怖い！さあ、一緒に逃げ出そう！

バタバタ、ドタドタ、ジャブジャブ、家まで一目散に逃げ出して、一緒にベッドに飛び込んで「ぼくらはもうくまがりなんかにてかけない」と叫んでみるのも楽しいでしょうね。

とにかくテンポを大事に読んでみてください。

